

## 特定健診・特定保健指導の準備状況

財団法人結核予防会

### 【全国組織としての結核予防会の経験と実績について】

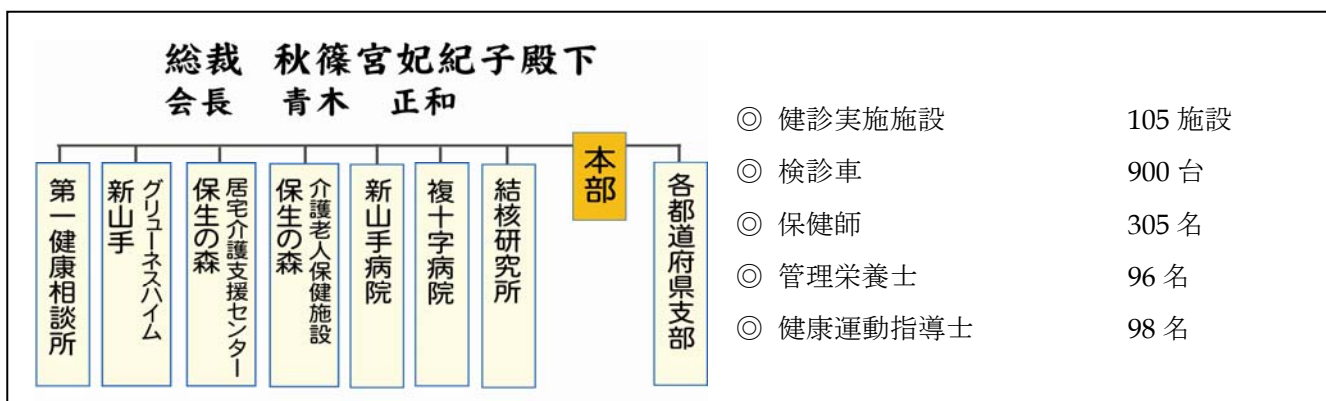
昭和14年、内閣総理大臣に賜った皇后陛下(香淳皇后)の令旨を奉戴し、閣議決定により設立された結核予防会は、結核という特定の疾病に対する長期的な保健衛生事業で着実に成果を上げてきた実績を有しています。結核はかつてわが国最大の“国民病”で、予防や早期発見のための結核検診は、保健指導と一体で行ってききました。

結核検診のピークは、罹患率・有病率が共に明確に改善へと転化しはじめた昭和40年代の半ば頃ですが、当時の受診者数は本・支部(47都道府県)合わせて年間約4000万人にのぼり、検診車等を駆使して全国津々浦々を網羅しました。

そして、結核罹患率・有病率の減少が顕著になっていく中で、結核予防会の支部は、こうした実績と経験を活かし、市町村や住民の要望に応えるため、他の保健衛生団体支部との統合を進め、成人病健診と健康支援事業の普及・拡大に貢献してきました。健康支援事業とは、健診後の事後指導会、栄養相談や定期健康相談、健康教室や健康トレーニング等、地域のニーズに応じた健康支援の場づくりです。

また、“国民病”対策にとって最も重要な点はポピュレーション・アプローチにあり、国民意識の啓発が必要です。当会は、昭和50年に「全国結核予防婦人団体連絡協議会」を設立し、当時の厚生省から社団法人として認可され、今日でもその会員は全国150万人を数えています。この結核予防関係婦人団体結成の機運は昭和25年の長野市に始まり、その後全国に広まって結核予防を国民運動に高めることができました。

こうした経験と実績を踏まえ、本部では昨年秋に「JATA健康ネットワーク事業本部」を立ち上げ、全国規模での受託体制の整備とサービスの質の確保に努め、結核予防婦人会組織とも連携して、地域・職域における生活習慣病予防を再び国民的運動にまで高めていきたいと考えております。



### 【特定健診・特定保健指導への対応について】

平成17年度現在、結核予防会では、事業主健診と自治体基本健診を合わせて約760万件受託しており、胸部健診は約666万件、市町村住民のがん検診が694万件、学校健診が674万件、人間ドックが20万件、その他をあわせて約3000万件の実績があります。

また、企業からの求めに応じて、本部支部連携による広域健診事業を立ち上げ、検査項目・価格及び検査基準についても統一し、健診データの一元管理や請求の一括処理を既に行っております。

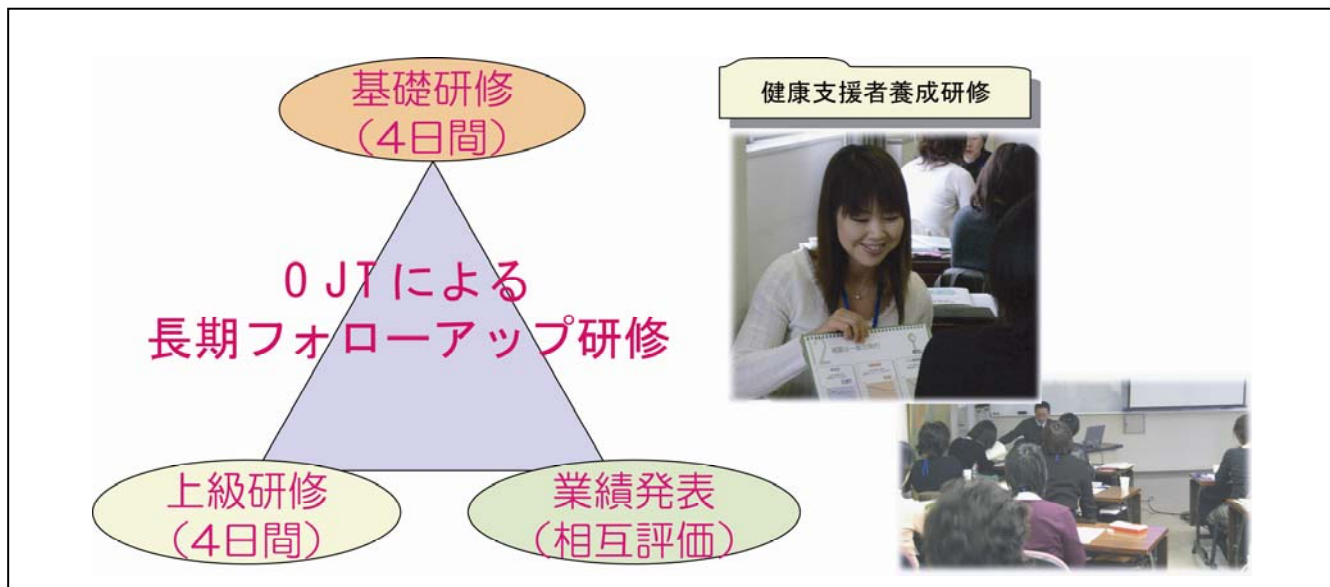
平成 20 年度からの特定健診では、これらの実績をもつ直営 105 の健診実施施設を中心とし、提携医療機関、予防医学事業中央会など当会と親密な関係にある団体、および医療保険者様の指定医療機関と連携させていただくことで対応したいと考えております。

特定保健指導については、300 名の保健師を中心に、提携を進めつつある保健指導機関との連携のもと事業を展開していく所存であります。

また、当会は、実施率を上げるだけでなく、結果を出せる質の高い保健指導を行うために、平成 17 年度より、本・支部が共同して「健康支援者養成研修」を実施しております。特定保健指導は、メタボリックシンドロームの該当者や予備軍をどれだけ減らすことができたかという結果を求められる事業で、行動変容を起こさせることができる高いスキルを持った専門家をどれだけ確保し、養成していけるかが最大のポイントとなります。このため、この研修では、講義を受けるだけの研修ではなく、OJT での 10 人の保健指導を義務づけており、研修修了者間での業績発表と相互評価を行い、質の確保と向上に努めています。

既に当会は、11 支部においては国保ヘルスアップ事業を実施または実施予定であり、18 年度においては福岡県と千葉県で「標準的な健診・保健指導プログラム(暫定版)」に基づいた試行事業の一翼を担っております。そして、19 年度においては複数の医療保険者様のご要望に応じてモデル事業を展開いたします。

こうした具体的方法についてのノウハウを蓄積し、全国組織としての責任をまっとうするため、「JATA 健康ネットワーク事業本部」では別添資料にあるような各界の専門家・有識者による「指導評価委員会」を設置し、精度管理の徹底に努めることとしております。



#### 【業務処理・データ管理システムの構築について】

「特定健診・特定保健指導」にかかる業務処理システムについては現在構築中で、本年夏までには稼働できる予定としております。

このシステムは、結核予防会の全国網で共通に使用することにより、日本全国何処で受診しても、データの一元管理ができるようになります(ASP<sup>(\*)</sup>での運用)。そして、健診機関が利用するだけのシステムではなく、医療保険者向け機能、受診者向け機能を有しています。これにより、結核予防会・医療保険者・受診者が共通で利用できるデータベースが構築されます。

また、データのリアルタイム暗号化はもとより、ICカードや生体認証を利用したハイレベルのセキュリティシステムを採用し、個人情報保護に万全を期します。

#### ○ 医療保険者様向け機能

データ参照だけでなく、抽出や集計機能を含め、想定できる様々な機能が提供できるようにいたします。データはXML<sup>(\*)</sup>形式に標準で対応しておりますので、医療保険者側システムとスムーズなファイルの受け渡しが可能となります。

#### ○ 受診者様向け機能

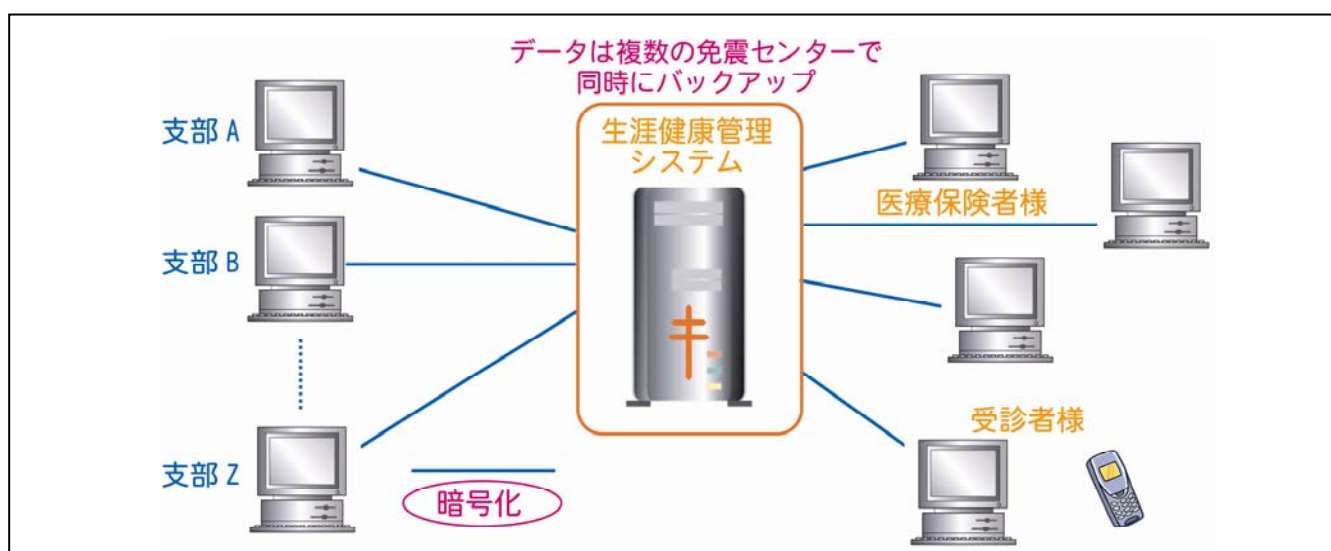
パソコンや携帯電話を利用したデータ参照機能はもとより、受診者からの情報入力にも対応できるシステムになります。データを提供するだけでなく、双方向データ管理システムを構築し、「生涯健康管理システム」として提供いたします。例えば、歩数や体重のデータ、食事の写真等(実際に食べたものを、携帯電話で撮影して送信)を受診者側からアップロードすることが可能となります。したがって、受診者からいただいた情報を保健指導に活用することができるようになります。

なお、受診者様にご提供するファイルは、外部から個人を特定できない運用をいたします。

#### ○ 健診機関向け機能

健診システムとして、自動判定や報告書発行機能をはじめとし、保健指導者が実際の指導の場で利用する「保健指導サポートソフト」としての機能も有します。

また、管理業務も含めたアウトソースも想定し、受診券・特定保健指導利用券の発行機能等も備えます。



(\*)ASP…… インターネットを介して利用者の端末から様々なデータにアクセスし利用するサービス。

(\*)XML…… データや構造を記述するために汎用化された言語。

**【被扶養者様への対応や代行業務について】**

前述のとおり、かつて国民病と呼ばれた結核検診同様、全国どこにお住いの被扶養者であっても、これまでの実績やノウハウを活かし、健診・保健指導を実施する体制を構築する準備を進めております。

また、業務処理・データ管理システムの整備により、支払代行や請求事務、受診券の発行や未受診者に対する受診勧奨等を含めた管理業務等、代行機関機能についても引き受ける用意があります。

本事業への対応は、日本の健康づくりの一翼を担う結核予防会の責務と考えておりますので、多くの医療保険者様からのご用命をお待ち申し上げます。